

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	令和 5年 1月 3日	評価結果市町村受理日	令和 5年 2月 17日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievsosvcCd=2770900856-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和 5年 1月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎朝その日の夕食の献立を決め、スタッフが買い物に行き、皆で調理を行っている。
- ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。
- ・敷地内の散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。
- ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、認定こども園がある。
- ・夜間入浴を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設を始め、地域に根付いた事業展開をしている医療法人の代表が、「独立した家でゆっくり皆と一緒に暮らす」ことができる場所を目的として設立したグループホームです。広い敷地内にはハーブ園や菜園があり、豊かな四季の移ろいを感じられる自然環境に恵まれています。「輝いて共に生きる」の法人理念を基本に「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念とし実践しています。初代表の「ひとつ屋根の下で、当たり前生活を続けられるように」の思いが現場に浸透しています。管理者は「利用者一人ひとり、今できることを大切に」と考え、日々の支援に取り組んでいます。その思いは職員間でも共有され、これまでの生活の延長線として、食材料の買い物や食後の食器洗い、掃除、洗濯物干し、散歩等一緒に行っています(現在はコロナ禍で出来ないこともあり)。「暮らし方の継続」の一つに就寝前の入浴があり、開設当初から取り組んでいます。リビングの様子からも利用者と職員のゆったりとした暮らしがうかがえるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 太いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	「輝いて共に生きる」の法人の理念を基に、ホーム独自の理念として「ゆっくり一緒に楽しむ」を実践しています。職員の事務所は、リビングから見える位置にあり、理念はいつでも目に留まるよう掲示しています。広いリビングは、食卓とは別にテレビの前のソファで利用者と職員が一緒に座り、ゆっくりとした時間を過ごすことを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけていた。こども園、小学校や中学校との交流もあり、体育祭や文化祭も見学したり、法人のお祭りや花火大会には参加して頂いたりしていたが、コロナの為今年度も交流など一切行えない。	毎日のようにスーパーに買い物や散歩に行ったり、また、保育所や小・中学校との交流もありました。現在はコロナ禍でできない状況になっています。そんな中でも、園児が七夕の笹を持って来てくれたり、今年度はハロウィーンで窓越し交流がありました。敷地内の菜園での作業時には、地域の方が声をかけてくれることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民、市役所職員が参加し、開催してきました。コロナ禍の現在は、報告・資料をメンバーに送り、メンバーからは労いや励ましの言葉が寄せられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	運営推進会議へ市職員の担当者参加により、ホームの状況を知ってもらうことで、手紙や電話で相談・報告しやすい体制となっています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、身体拘束ゼロの手引き11項目の読み上げ確認を2か月に1回行っており原則禁止行為であると言う事は全職員に周知できている。	開設当初から身体拘束はしておらず、「あり得ない」との思いを持ちながらも、法人の月1回の身体拘束委員会の勉強会や研修に参加し、意識を高めています。ホーム独自で「身体拘束ゼロについて」禁止令11項目と項目遵守11項目を作成し、2か月に1回読み上げ確認することで全職員に周知できています。新人スタッフに対しても、個別に身体拘束について指導をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、自宅、家族に対しても注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用された方はいませんが、勉強会に参加したり、地域包括支援センターから情報を得たりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をしており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	利用者からは、毎朝、昨日の献立をベースに意見を聴き、朝食・夕食の献立を決めています。コロナ禍前までは、家族の訪問も多く職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望も聴いてきました。コロナ禍では家族の面会も制限し、運営推進会議の議事録を家族へ送付することで、電話や来所時に意見を聴くことができています。ブルーベリーミニ新聞を年2回発行し、家族へ送っていましたが、面会を制限する中、毎月発行することで、利用者の様子を伝えています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	管理者は、職員に介護することの楽しさを実感してもらうことを大切にしています。日々の生活の中で「やってみたい」ことの提案を積極的に取り入れ実施に繋げています。例えば、毎朝のラジオ体操後に運動を取り入れ、歌いながら「おじゃみ遊び(お手玉)」等ができています。管理者と職員は、自由に意見が言える関係性ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。(今年度もコロナの為資料配布され、各自で読むという形の研修会になった事もある)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。(コロナの為今年度は一度もなかった)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と向き合える時間は一日を通したくさんあり、じっくりと話を聞くことを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの為今年度は開催できませんでしたが家族会を年に2回開催して、交流を深めていました。また連絡を取り合い、家族の話を聞いたり、こちらでの入居者の様子を伝えたりし、信頼関係を築くよう努めている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要とされているのか本人、家族だけでなく情報を頂ける事業所等にも伺い、必要とあれば何度でも話し合うよう努めている。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談している。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多い。		
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	家族とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いで入居者を支援していく関係づくりを行っている。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力して頂き、近所の方、知人の方に面会に来て頂いたり、外出、外泊する事も勧めていたが、今年度もコロナの為直接的な交流は出来なかったが手紙や電話のやり取りを行って頂いた。	コロナ禍前は、馴染みの知人や近所の方の面会も多く、また入居前に住んでいた自宅まで散歩に行くことも度々ありました。コロナ禍の現在は手紙や電話での交流を支援しています。電話は思った時にいつでも使用できるようにしています。敷地が広いことで、敷地内の散歩時に近所の方と出会う機会もあります。	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。 入居者が孤立した場合、口論になった場合は職員が間に入るようにしている。		
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会に行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりしてた。近所の方として、関係が続いている。又、相談を受けた際、誠意をもって答えている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	「ゆっくり一緒に楽しむ」の理念を掲げ、支援している暮らしの中で、職員は利用者に寄り添い、利用者の気持ちを理解するよう努めています。職員は利用者の思いや意向を知るために、1対1の会話を大切にしています。知り得た情報は専用ノートや日々の個人記録で共有し、ケアプランに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、本人、ケアマネジャー等より、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りでスタッフが共有し、月1回モニタリングも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の意見を尊重し、家族、職員で話し合い、計画を立てている。	介護計画作成担当者として大切にしていることは、利用者の思いを1番に考えることで、個々を尊重した介護計画となっています。家族の思いも電話や来所持に聴きとり、プランに繋げています。ホームでの利用者一人ひとりの役割が介護計画に反映され、意欲を高める暮らしにつながっています。毎月モニタリングを実施し、基本的に6ヵ月毎に見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、職員間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		

己 自 部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、安全・安楽・安心な生活ができるよう努めている。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内のクリニック、歯科クリニックであれば受診への付き添いも行っている。	隣接した同法人の敷地内に、病院、歯科医院があり、月2回定期的な往診があり、その結果は家族に報告しています。必要に応じて付き添いによる受診もしています。敷地内に常駐するかかりつけ医や、ほぼ毎日出勤している看護師により適切な対応ができ、24時間オンコール体制も整い、安心感につながっています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取り、必要な情報提供を行っている。 法人内職員が定期的に病院を回り、関係づくりを行っている。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、希望された病院や施設等を案内している。	入居の際、本人・家族に入院や重度化した場合の説明をしています。重度化した場合は本人、家族の意向に沿って希望された施設や病院を紹介しています。体調不良により食欲が低下した場合は、家族の協力を得て食べることに重点を置き、回復につなげています。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 敷地内には、かかりつけ医が居る為、すぐに連絡を取り指示を仰ぐ等の対応を行っている。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べないとの事であるが、地域との良好な関係は築いている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4回消防避難訓練を行っている。	ホームで年2回、法人内で年2回、消防訓練を行っています。避難場所は敷地が広いので、ホーム前の広場を利用し、安全に避難できる体制を取っています。備蓄は飲料水や缶詰など保存用食料の内容を記載し管理しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、その人その人にあつた丁寧で分かりやすい言葉かけを心掛けている。	法人内共有の語録「親しみと馴れ馴れしさは違います」を大切に、利用者一人ひとりに合った、分かりやすく丁寧な言葉かけを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めや、余暇の過ごし方等、自己決定できるよう言葉かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	出来るだけ希望された事ができる様、努力している。 職員だけでは困難な事は家族にも協力して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかず等の支援をしている。 コロナの為外出ができず、散髪や毛染めはスタッフが行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にやっている。 今年度もコロナの為買い物は職員が行っている。	昼食は法人内の老人保健施設より届き、朝食・夕食はホームで作っています。献立を利用者と共に考え、買い物に行き、調理から片付けまで一緒にを行っています(コロナ禍の今は買い物は職員のみ)。食後、キッチンで洗い物をする時や、仕上げに水まわりを丁寧に拭く時なども、家事の役割をこなす生き活きとした表情が見られます。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねている。毎日の摂取量も記録し、必要であれば法人内の管理栄養士に相談している。 一人一人の食べられる量も把握している。			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援し週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。 年一回、市が行っている無料検診に行っている。			
43	(16)			○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれた際には、パンツやパットのチェックを行ったり、使用時間を確認したりして、排泄パターンや方法を把握している。	ほとんどの利用者が自力歩行にてトイレに行きます。トイレの際には、パンツやパットのチェックをして清潔を保っています。場所も分かりやすいように表示し、使用時間を確認、排泄記録を付け、状況を把握して、尊厳を傷つけることなく、気持ちよく生活できるよう支援しています。		
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、お米にもち麦をまぜたり、毎朝バナナを食べたりしている。運動をし、予防に努めている。			
45	(17)			○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を行っている。 入浴するかしないかは、毎日一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	利用者一人ひとりの希望に合わせて、夕方から夜にかけて入浴支援をしています。毎日でも入浴できるように、本人の希望やタイミングを見て声掛けをしています。月曜日から土曜日まで毎日入浴されている利用者もいます。家での生活をホームでも実現しようとの考えで、開設当初から、就寝前の入浴は「当たり前」となっています。入浴を好まない利用者の場合は、他の職員が声をかけたり、関係づくりを慎重に行い、入浴できるよう工夫しています。		
46				○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、その時の状態に応じ居室で休んで頂くよう支援している。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルしてあり、いつでも見られるようにしている。 薬に変更があった際、申し送りで職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力に合わせて役割を持って頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は個々によって違うことから、個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナでなければ「今すぐ出かけたい」と言われれば、出来る限り沿うように努めていた。墓参りや外食、デパート等、家族にお願いすることもあった。今は受診、散歩以外、外出禁止となっている。	コロナ禍のため、現在は受診・散歩以外は外出禁止となっています。散歩は毎日法人内の広い敷地を歩くことで、気分転換や運動不足の軽減に努め、花壇や菜園を眺め季節を感じて楽しんでいます。職員は早くコロナが収束することで、以前の日常的な外出支援ができる事を願っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金をお預かりしていて、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。 高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際は家族に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を使って頂いて良い事としている。 お手紙の代筆を行ったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てそこが何をやる場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは24時間電気をつけたままにしたりしている。	共有生活の場所は広いホールとなり、玄関を入ると食事テーブルとキッチン、奥にはテレビを観たり話ができるソファが配置してあります。窓のカーテンは開け放ち、外の風景が楽しめます。また窓辺には一人用の座椅子もあり、静かな時を過ごすことができます。ホール内は場所の把握がすぐできるように張り紙がしてあります。居室入口には、温かみを感じる木のネームプレートが掛けてあります。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしている。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	広いホールを囲むような構造になっている居室は、どの部屋からも外の景色が楽しめます。居室にはエアコンとカーテンの設備があります。利用者はタンスやテレビ、椅子など使い慣れた物を持ち込み、家族の写真等を飾って、居心地の良い部屋になっています。また壁紙も好みに合わせた色彩で、本人に分かりやすいようにしています。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレや職員ルームの前にも掲示している。 居室から一歩出れば共有空間があり、安心感もある。			